

文学的文章の指導

—— 主体的学習の一指導 ——

糸魚川市立糸魚川小学校教諭 開発 義雄

I 主題設定の理由

文学的文章の読みの指導にあたって、子どもたちの顔を見るといかにも迷惑そうである。特に物語文は読む者の歩調に合わせて、それなりに楽しく読ませるのが本体であろう。

しかし、学習教材としての物語文は、単に子どもの興味、関心だけで処理できない。作品の主題登場人物の心情、あらすじ……などの理解を学習めあてとしなければならないからである。

文学的教材は国語科において、重要視されなければならないが、自分はいったいどんな指導をしているだろうか。学習指導という立場から、時には児童の興味、関心のみに留意せずに指導することもやむをえないと思う。しかし、現状は、あまりにも子どもたちの主体性、主観性を無視した教師中心の学習指導が多すぎる。ただ、「感想発表」「話し合い」などの学習形態をとることによって子どもの主体性を重んじるように思われるが、文学的文章の本質的な指導にはほど遠いものを感じる。

そこで、子どもに学習の主体性をもたせ、豊かな人間性を育成するような本質的な指導を検討しようとしたのが研究主題設定の理由である。

II 研究のねらい

子どもたちに文学的文章を主体的に学習させることによって、楽しく、生き生きとした気持ちにひたらせるということを基本にして、

1. 心情を豊かにする。
2. 思考力を高める。(中学年なりに)
3. ものの見方、考え方、感じ方についてわかる。
4. 人生に対する希望をつかむ。

以上、4つのことを学習のねらいとした。

次に、主体的学習を進めるにあたっての方法として、作業化学習をとりあげ、3年生なりの作業化学習を行ない、その効果、問題点を考える。

このことから、読みにおける価値的なもの、読みとりの技能的なものの2点をねらいとして設定した。

III 研究の仮説

文学的教材の取り扱いにあたって、主体的学習をどうとりあげるか。次に、主体的学習とその一方法である作業化学習との関係を明らかにするため研究仮説を下記のとおり考えた。

1. 主体的学習のうけとめ方

○ 読むこと自体主体的な活動である。——しかし、教室内の学習では、どうしても児童は受身の立場になってしまう。教師から児童への一方的な指導形態から脱却し、(学年の発達段階によって違うが)教師と児童が一体となって学習計画を立て、問題解決への道を開くのが望ましい。

○ 問題意識の育成と思考力 —— 主体的学習をささえるものの1つに児童の問題意識が考えられる。作品を読みながら、たえず自分自身の問題意識をもち、その問題を作品の中で解決し、確かめていく。(深めていく)こうしたとき、文学的教材は生き生きと読み進められていくのではない。このとき、問題解決に働く思考力は、問題意識とともに働き、向上しなければならない。したがって、作品を読むにあたって「読む前」「読みながら」「読んだあとで」と、たえず問題意識を持ちながら進むことがたいせつである。

○ 問題意識と解決 —— 作品を通していかに問題意識を持ち、解決するかということは、学習という立場からみれば根本的問題である。今まで、「何を」「何のため」読むか、という読み手の主体性があいまいになっていたのではなかろうか。はじめに持った問題意識を読み手自身で解決して行く。それには、読み手がしっかりと自分の問題をもつということである。そして、各自が考えた解決方法、共同での解決方法、あらゆる手段と方法との中から、一番その作品に適したもの、あるいは、能率的なものを見つけ出し、解決していくのが望ましいのではなかろうか。

2. 主体的学習の方法としての作業化

主体的学習を進めていく過程において、子どもの主体性をより高めるために、「書く作業」を取り入れるのが適しているのではないかと考えられる。

児童が学習の主体となるためには、児童自身の手で、児童自身の考えを文字表現すること、それをもとに思考を深め、確かめ話し合いの材料とすることが望ましいと考えられる。

したがって、作業化について、次のような一般的な価値づけをし研究仮説を設定した。

○ 学習過程の構造化 ○ 個別化……に役立つ。

以上の観点から、作品とのふれあいの中で、自分自身の問題意識を持ち、その問題意識を自分自身の計画で解決し、確かめていくとき、文学的作品は、生き生きと心に触れてくるものとなる。

Ⅳ 研究の計画と方法

① 教科書教材の検討 教材の選択 ② 指導過程の研究 ③ 実験授業

研究の計画にしたがって、担当学年(3年生37名)を対象に、下記のとおり実施した。

① 選択した教科書教材の分析を行ない、研究のめあてにしたがって指導過程を設定する。

② 実験授業を行ない、その結果の考察にあたっては、指導中の児童の反応の記録、児童個々のもつ問題点を作業化(ノート)学習させることによって、または、話し合いをさせることによって児童の変容をつかみ、指導の結果を感想文でまとめる。

V 指導の具体例

題材 「ピノキオ」 (3年, 光村上)

1. 教材の分析

(1) 主題

ピノキオのわがままな行動に対するゼベットの大きな愛情と、それによるピノキオとゼベットの心のふれ合い。

(2) 学習の焦点として

- 最低のめあてとして、おたがいの心のふれ合うことのねうちをとらえる。
- ・ 登場人物の心情を読みとる。・ 登場人物の言動を読む。・ 感想をもつ。(全体, 場面)

2. 学習過程の設定

前述のことを基本に、児童の主体性をできるだけ生かすよう配慮し、学習過程を次のようにたてた。

次	内 容	時	次	内 容	時
一 次	◎ 全文を読みとおす。 ①新出文字の指導 ②問題をさぐる。 ○ おもしろかったところ。 ○ ふしぎに思ったところ。 ○ 読んで感じたこと。	1	三 次	◎ 問題解決のためくわしく調べる。 ①話のだいたいを読みとる。 ○ 登場人物の言動を対比させながら調べる。(作業) ○ 登場人物の気持ちを考える。 ②場面ごとにまとめて読む。 ③場面において問題を持ち解決する。	5
	◎ 問題をもつ。(主題の予想) ①問題をしぼる。 ○ 問題をしぼるために読む。 ○ 問題をしぼって書く。(作業) ○ しぼった問題について話し合う。			◎ 解決したことを確かめる。 ○ 確認のため読む。 ○ 確認のため話し合う。 ○ 感想を書く。	
二 次	②問題を確認する。 ○ 問題解決の手段, 方法を考える。 ○ 考えた方法について話し合う。	2	四 次		2
			五 次	◎ 練習, テスト	

3. 実験授業 (略案)

(1) 題材 「ピノキオ」 (2) 題材と児童(略) (3) 指導計画 第1次2時

(4) 本時のめあて

- 読んで、主題につながる問題をさぐる。

(5) 学習の展開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1. 全文を読む。 ○自由に読む。 2. 全文を黙読しながら、問題をさぐる。 ○おもしろかったところ。 ○ふしぎに思ったところ。 ○読んで感じたこと。 3. もった問題を発表する。 4. 出た問題について、話し合いながらしぼる。	○読む視点を明確にし、各自が目的をもって読む。 ○ノートに書く。(作業) ○自由に発表させる。 ○黒板にまとめて書く。 ○主題を予想する観点から、問題をしぼる。 ○うまくまとまらないときは、教師も話し合いの仲間にはいる。

学習過程に合わせて、問題解決学習というたてまえから、「問題」ということばを使いながら、以下立案した。上記指導案は、第2時間目にあたるわけである。これが、学習の方向を決めるための最もたいせつな段階となる。

次に、第1次2時間目から第2次までの児童の反応を比較しながら述べる。

4. 児童の反応

(1) 第1段階での問題意識	(2) 第2段階での問題意識
(1) どうして急に鼻がのびたのか。 (2) どうしてピノキオの目玉が、ゼベットのじろじろ見たのか。 (3) ピノキオは、なぜ、お礼をいわなかったのか。 (4) ピノキオは、なぜ、ゼベットにだきついたのか。	(1) 人形の鼻が、どうして、ひとりでに動くのか。 (2) 人々は、どうして、ゲラゲラわらっているのか。 (3) ピノキオは、なぜ、ゼベットにだきついたのか。
(3) 第1段階での問題解決の方法	(4) 第2段階での問題解決の方法
(1) 本をよく読む。 (2) 考えながら読む。 (3) ピノキオの気持ちを考える。 (4) 自分がピノキオやゼベットになったつもりで考える。	(1) よく考えながら読む。 (2) わからないところをみんなで話し合う。 (3) 登場人物の気持ちを考える。 (4) 心にのこったことをまとめる。

5. 作業ノートから（第3次2時間目） A子（成績中の上）の例

ピノキオとゼベットの会話，行動，気持ちを対比させることによって，ふたりの心のふれあいを読みとらせる手がかりとしての作業化。能力に関係なくだれにも比較的やりやすい作業化。以上の2点を基本にして作業の形式を決めた。

ピノキオ	ゼベット	自分の考え，感じたこと
<p>○新しい足が一そろいほしい。といって，なきわめきました。</p> <p>△ほく，やくそくします。きつといい子になるって。</p>	<p>△おまえを，もういちど家出させるためかい。</p> <p>△子どもって，何かほしいときには，みんなそういうものなんだ。</p>	<p>・わがままだと思う。</p>
<p>△あ，そうだ。いちばんたいせつなものがない。</p> <p>△本がないのです。</p> <p>△おとうさん，上着は。</p> <p>△どうして売ってしまったの。</p> <p>◎ゼベットにだきつきました。</p>	<p>△というと。</p> <p>◎ゼベットは，かなしそうなかおをしました。</p> <p>○ふいに上着を着ると外へかけ出していきました。</p> <p>○一さつの本を手にして，もどってきた。</p> <p>◎外には，雪がふっているのに上着は着ていなく，シャツだけでした。</p> <p>△売ってしまったよ。</p> <p>△暑かったんだよ。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>△ 会話</p> <p>○ 行動</p> <p>◎ ようす，気持ち</p> </div> <p>・よかったと思う。</p>

6. 感想文から（第1次） B子（成績中）の例 — 原文のまま —

ゼベットという人形づくりのおじいさんが，作った男の子のあやつり人形は，できあがると人間のようになり，動きはじめました。どうして，目玉がうごいたり，したを出したり，歩いたりできるのか，ふしぎに思いました。

ピノキオと名まえをつけられた人形は，家をとび出して，いたずらをして，おじいさんをこまらせたのに，ゼベットがピノキオをいじめたとまちがえて，ろうやに入れられたのは，かわいそうに思いました。（中略）

わがままや、いたずらばかりやっていたピノキオも、おじいさんのあいじょうに人間らしい、心を、もつことができたので、おじいさんに、かわいがられるいい子になったでしょう。

わたしが、寒がっていたりすると、おとうさんは、自分の上着をぬいで、わたしのせ中に、かけてくれることがあります。

そんな時 わたしは おとうさんが とても やさしく 思います。

ピノキオもきっと、おじいさんが すきになって わがままを いわない子に なるといいと思います。

VI 結果の考察と反省

1. V, 4 児童の反応から

児童のもつ問題意識は、ほとんど表面的なものであり、(1)(4)の意識が強く、物語を内面的にとらえていこうとしているものは、ほとんどいない。

平素、他の読み物に接した場合も同様なのであろうか。しかし、これは当然なことであり、それがまた、物語のおもしろさ、魅力になっているのであろう。ただ、今まで経験したことのないような学習形態にはめられたのと、ただ、ばく然と「疑問」「感じ」といった発問に対して、直感的にこたえたのであって、それらの疑問、感想が、どこに、どのようにつながるのか、明白でなかったのではなからうか。

したがって、問題解決の方法になると、既習の学習方法を生かして、比較的適切な反応を示していることからよくわかる。

全体的にみて、3年生程度で、しかも初めての学習形態であることを考えると、やはり、教師とともに学習を進めていくのが、効果的ではないかと思われる。

2. V, 5 作業ノートから

主体的に学習を進めるにあたって、作業化学習は否定できない一方法であらう。しかし「作業」そのものにふりまわされ、学習の大半を作業についやすということのないよう留意したい。

作業になれない子どもたちには相当負担がかかったようである。しかし、作業することになれるにしたがって、作業のテンポも早くなり、徐々に解決された。

次に、ノート、プリント用紙などの書くことを中心にした作業化学習では、

(1) 1時間の学習時間の最も効果的な作業のさせ方。

(2) 児童の能力差をどうするか。

(3) 作業の事後処理を効果的にするにはどうするか。

など、今後の課題として、研究を進めて行きたい。

<参考文献>

興水 実 国語科の基本的指導過程